

スポーツ少年団優良団員を表彰



スポーツ少年団大越支部の優良団員奨励式と運動適性テスト、もちつき大会が1月25日、大越の体育館・公民館で開かれました。団員と指導者、保護者など92人が出席し、各スポーツ少年団で活躍した団員が表彰されました。運動適性テスト後は、自分たちでついた餅を食べながら、新年度の活動に意欲を高めていました。表彰団員は次のとおりです。(敬称略)

【優良団員賞】ソフトボール…白土滉也、根本将汰、石井豊基(大越小6年)、剣道…佐藤利哉(大越小6年)【奨励賞】剣道…富塚凌(大越小1年)、渡邊宥樹(関本小1年)

ドッジビーで熱戦と交流



第4回田村市スポーツ少年団交流大会が1月18日に市総合体育館で開かれ、市内のスポーツ少年団員約300人が参加しました。大会では柔らかいディスクを使うドッジボール形式のニュースポーツ「ドッジビー」が行われ、24チームが種目と地域を超えて熱戦を繰り広げ、互いに交流を深めました。結果は下記のとおりです。

優勝…七郷スポーツ少年団(写真左)
準優勝…古道スポーツ少年団男子B(写真右)
第3位…大越ソフトボールスポーツ少年団

広報紙の写真が県で特選

平成26年1月から12月までに発行された広報紙を審査する「第60回福島県市町村広報コンクール」の審査が行われ、たむら市政だより4月号に掲載した表紙写真が写真(一枚写真)の部で特選に選ばれました。

この写真は、3月18日に行われた常葉幼稚園の修了証書授与式で、式の最後に園児からお母さんへ花束を手渡す瞬間を撮影したものです。快く撮影に協力していただいた園児と保護者の皆さんに改めて感謝を申し上げます。

同写真は、今後、福島県代表として全国広報コンクールに出品されます。これからも、より良い表情をお伝えできるようイベントや行事などを撮影し、市民の皆さんに親しんでいただける広報紙を目指してまいります。



教室参加で、健康・仲間づくり

市が昨年8月から開校した田村市健康づくりアカデミーでは、生活習慣病予防の学習や体力測定、ウォーキング大会への参加、調理実習など全12回の体験学習が開かれ、31人が参加しました。

1月30日には閉講式が開かれ、今までの振り返りを行いました。参加者からは「新たな仲間ができ、仲間の支えで健康づくりが継続できた」との声が聞かれ、運動の継続で体重の維持や姿勢が改善されたり、体力年齢も若くなったりの効果が確認されました。また、減塩の大切さと方法を学び、早速、家庭で実践していることも報告されました。



木彫りの仏像に心洗われて

大越公民館ふれあい学級と下大越女性学級の合同学習会が、1月27日に行われました。

川俣・福島方面の研修には26人が参加し、川俣町おりもの館でコースター織を初体験しました。最初、糸を引く加減が分からず手間取っていましたが、段々と慣れ、彩り良い織物を仕上げました。



その出来栄には全員が大満足でした。また、東日本大震災復興支援として開催の福島県立美術館「飛騨の円空展」を見学し、江戸時代の僧侶、円空が彫った名作の仏像約100体に感激しました。作品を鑑賞した参加者からは「口元がほほ笑んでいる仏像に心が洗われ、難を逃れられるような気がする」との声が聞かれるなど、有意義な1日になりました。

牧野に冬の使者が到来



今年も大越町牧野地区の田んぼに冬の渡り鳥ハクチョウが飛来し、地元の人や見学に訪れた親子連れなどに愛くるしい姿を披露しています。撮影した1月27日には、約25羽が水面にくちばしを差し込んで餌をついばんだり、優雅に泳いだりしていました。牧野地区ではハクチョウが過ごしやすい環境づくりに長年努めており、その効果が現れ、毎年飛来数が増えています。

運搬車両1台を導入



大越町の福島県福祉事業協会「多機能型事業所田村」に1月12日、日本財団から運搬用の2トントラック1台が贈呈されました。贈呈式では、同財団車両チームリーダーの中村真美子さんから施設を運営する山田荘一郎理事長と利用者の代表へレプリカキーが手渡されました。車両は今後、施設利用者が受注した工業部品などの納品輸送に役立てられます。